

令和6度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

中学校区 校番4 学校名 呉市立広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
知	確かな学力を育成する。	(1)落ち着いた雰囲気 で授業を進め、基礎学力を 定着させる。	実力テストについては、1学年、国語科において、目標値の地域平均を上回ったが、その他は全て下回っている。全学年において、学習内容の定着に課題がある。	学習規律マニュアルを徹底するとともに、授業のめあてを明確に示していく。また、各授業の中で、生徒に思考させる時間を意図的に仕組み、学習内容の定着を図っていききたい。
			各項目(人の話を聞く、落ち着いて授業を受ける)に関わる生徒の生活アンケートの肯定的な回答の割合は、全体で95.1%だった。目標値は達成しているものの、落ち着かない状況も一部あり、生徒の学習姿勢に対する意識に課題がある。	学習規律マニュアルに沿って、学習に向かう姿勢を徹底させる。黙想、授業の開始と終了時の挨拶を徹底させるよう全教員で取り組み、学習姿勢に対する生徒の意識向上を図る。
			タブレット使用状況調査で、「タブレット端末を活用するのは勉強に役立っている。」と回答した割合は96.9%であり、目標の90%を達成している。昨年度の同時期に実施した調査の回答である94.9%と比較しても高い達成値となっている。	課題や目的に応じてタブレットを使用する場面を授業で設定することで、タブレットの学習における効果的な活用を定着させ、更なる活用の向上を図っていききたい。
徳	豊かな心を育成する。	(2)規範意識を育成する。 貫 (3)自己肯定感を育成する。	各項目(挨拶、返事、掃除)の肯定的な回答の割合は、全体で90.5%だった。項目別では、「挨拶」「返事」「掃除」はそれぞれ90.0%、91.6%、89.9%であり、いずれも目標値を上回った。	各委員会を中心に取り組み、自発的に各項目(挨拶、返事、掃除)が達成できるようにしていく。
			「自分には良いところがある」の項目の肯定的な回答の割合は、全体で85.4%だった。学年別では、それぞれ88.4%、82.8%、85.1%であり、2年生が目標値に達成できなかった。	合唱コンクールなどの学校行事で自己肯定感を高める機会を設けていく。
体	健やかな体を育成する。	(4)基本的な生活習慣を定着させる。	基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)メディアの接触時間についての生活リズムチェックでは、自分の目標を達成できた生徒は全体で83%だった。夏休み中の強化週間では目標を達成できたが、日頃の保健室来室者等の個々で見ると、メディアの接触時間が長く睡眠不足傾向の生徒も多く見られた。併せてメディア依存についても考えさせていきたい。	まずは自分の生活を振り返ること、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を意識した生活ができることを目標に今後も声掛けをしていきたい。通信や外部講師からの授業から、規則正しい生活が健康を維持していくために大切なものだとして理解させたい。
		(5)体力・運動能力を向上させる。	全生徒451人のうち、体力・運動能力テストを全種目試技できた人数は408名であった。学年別で見ると、総合評価C以上を達成できなかった生徒の割合が、1学年男子42%、1学年女子で21.2%、2学年女子で24.4%と多かった。各運動能力の臨界期に応じた指導を効率的に行うことが大切だと考える。	中学生の時期は、心肺機能が著しく伸びる時期であることから、体育の授業では、①活動時間を確保すること、②長距離走の授業で、個々の記録を更新できるよう手立てをする。また、昼休憩のボールの貸し出しを継続し、運動に親しむ経験をする機会を確保していく。
*	信頼される学校づくりを行う。	(6)開かれた学校を目指す。	「広中央中学校は情報発信を行っている」と肯定的に回答する保護者の割合80.9%と目標値を達成できなかった。情報発信の工夫が必要と考える。 「広中央中学校の教育に満足している」と肯定的に回答する保護者の割合73.9%で目標値を達成できなかった。生徒と向き合う時間を確保するとともに、密な保護者連携を行う必要があると考えられる。	各学級・学年による定期的な通信の配付、学校行事や学校通信などのホームページ配信をこれまで通り行っていくとともに、学校での出来事を保護者と密に連携していく。積極的な生徒指導を行い生徒・保護者が、「安心・安全」と思える学校体制を確立させる。また、生徒が成功できたことをタイムリーに肯定的に評価し、成功体験についても保護者と密に連携していく。
		(7)「自分の命は自分で守る」力の育成	災害が起こったとき、自分はどこへ、どのように避難するかを知っているというアンケートに対し、肯定的な回答が、95.4%であった。また、自分の住む地域に起こりやすい災害を理解しているかというアンケートに対しては、肯定的な回答が、97.7%であり、生徒が災害に対する理解を深めていることが分かる。	今後の避難訓練や防災教育を計画的に実施しながら、生徒の「自分の命は自分で守る」力を育成、維持していききたい。また、折に触れて、災害に対する最新の情報を提供し、生徒の防災に対する理解を深めていきたい。
業務改善	働き方改革を推進する。	(8)生徒と向き合う時間を確保する。	肯定的な回答は57.1%と目標値を達成できていない。具体的には肯定的な回答の「あてはまる」は19%、「ややあてはまる」は38.1%で一番多かった。一方で否定的な回答の「あまりあてはまらない」が28.6%、「あてはまらない」は14.3%であった。	生徒と向き合う時間の定義を確認(授業、授業準備、教材研究、過案・指導略案作成、部活動、個別指導(学習補充、進路指導、生徒指導等)するとともに、積極的な生徒指導を行うことで、部活動指導等の直接的に生徒と向きあう時間を確保していく。
		(9)長時間勤務を削減する。	時間外勤務が月平均45時間以内の常勤の教職員数は7月で29人中14人であった。年度当初は、新しい業務や生徒との関係づくり等に時間がかかる職員が多くみられた。	試験週間や試験期間、長期休業中は定時に退勤できるよう掲示物等を活用する。生徒指導等の課題が発生した時には学年間や管理職と情報共有を行いながら早期解決させていく。